

Jホール 活用法探る

岡山大関係者ら 記念シンポ

国内の優れた建築物を表彰する今年のBCS賞を受賞した岡山大学Jホール（岡山市北区鹿田町）で、記念のシンポジウムが10日開かれ、設計した世界的建築家ユニットSANA Aや大学関係者らがプランの狙いや今後の活用法などを話し合った。

「と説明。谷一氏も「これほど一般市民が訪れる大学施設は全国的にも珍しい」とキャンパスの活性化や交流施設として機能を高く評価した。今後について、福武理事長が「完成して終い」と述べた。（松島健）

岡山大などが開催。SANA Aの妹島和世、西沢立衛の両氏、森田潔同大学長、春名章二同大副学長、建設費を寄付した福武純子・福武教育文化振興財団理事長、谷一尚林原美術館長の6人がパネリストを務めた。

BCS賞は日本建設業連合会主催。デザインだけでなく、企画や設計、施工、管理など全プロセスから評価す

るのが特徴で、7月の受賞が決まった。シンポジウムはホールの歴史ある建物を多くの人に感じてほしかった。岡山大など開催。SANA Aの妹島和世、西沢立衛の両氏、森田潔同大学長、春名章二同大副学長、建設費を寄付した福武純子・福武教育文化振興財団理事長、谷一尚林原美術館長の6人がパネリストを務めた。



岡山大Jホールの活用法などを探ったシンポジウム